

# 栗原市水道ビジョン 概要版

## 1 栗原市水道ビジョンとは〔本編P1～5〕

### (1) 策定の経緯

人口減少社会の到来や大規模災害の発生など、近年、水道事業を取り巻く環境は大きく変化しており、高度化、多様化する課題への取り組みが求められるようになりました。この状況を踏まえ、厚生労働省は、将来にわたって水道を持続させていくため、平成25年3月に水道事業者が取り組むべき方向性を示した「新水道ビジョン」を策定しています。

これを受け、宮城県では、平成28年3月に東日本大震災の教訓を反映させる形で「宮城県水道ビジョン」を策定し、これを水道事業者が共有すべき基本的な指針として位置づけています。

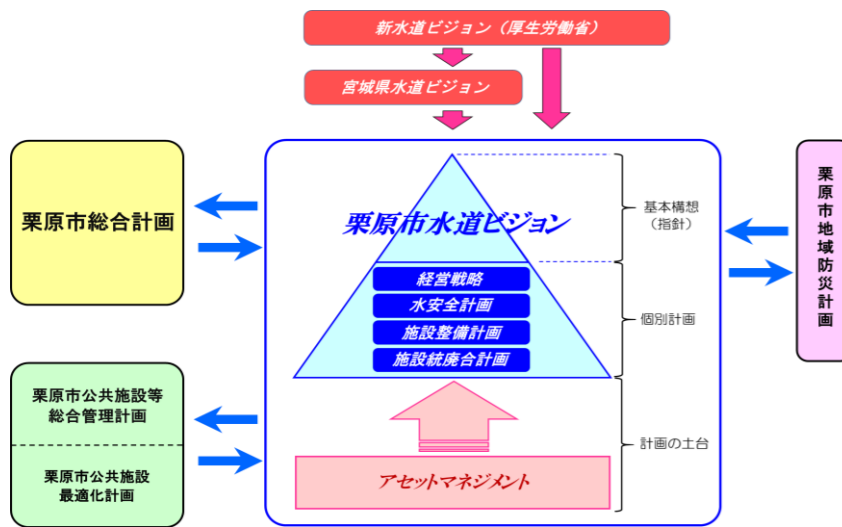
栗原市においても、少子高齢化に伴う大幅な人口減少による水需要の減少、これに伴う水道料金の減収、市内の多くの水道施設の更新や耐震化による費用の増大など様々な課題を抱えています。これらの課題を解決し、安全・安心な水道水を将来にわたって供給していくため、「栗原市水道ビジョン」を策定するものです。

### (2) 位置づけ

栗原市水道ビジョンは、国や県の水道ビジョンを踏まえ、「栗原市総合計画」など市の各種計画と整合を図りながら、50年後、100年後の将来を見据えて水道を持続させていくため、栗原市が目指すべき未来・将来の方向性を示した水道事業運営の「基本構想（指針）」です。

計画期間は、令和2年度から令和11年度までの10年間です。

【栗原市水道ビジョンと各種計画との関係】



### (3) ビジョンの構成

栗原市水道ビジョンでは、現状と課題について整理を行った上で、将来の事業環境を踏まえて目指すべき理想像を掲げ、それを実現するための方策を示します。国や県の水道ビジョンに準拠し、全体を通じて、「安全」「持続」「強靱」の3つの視点で構成しています。

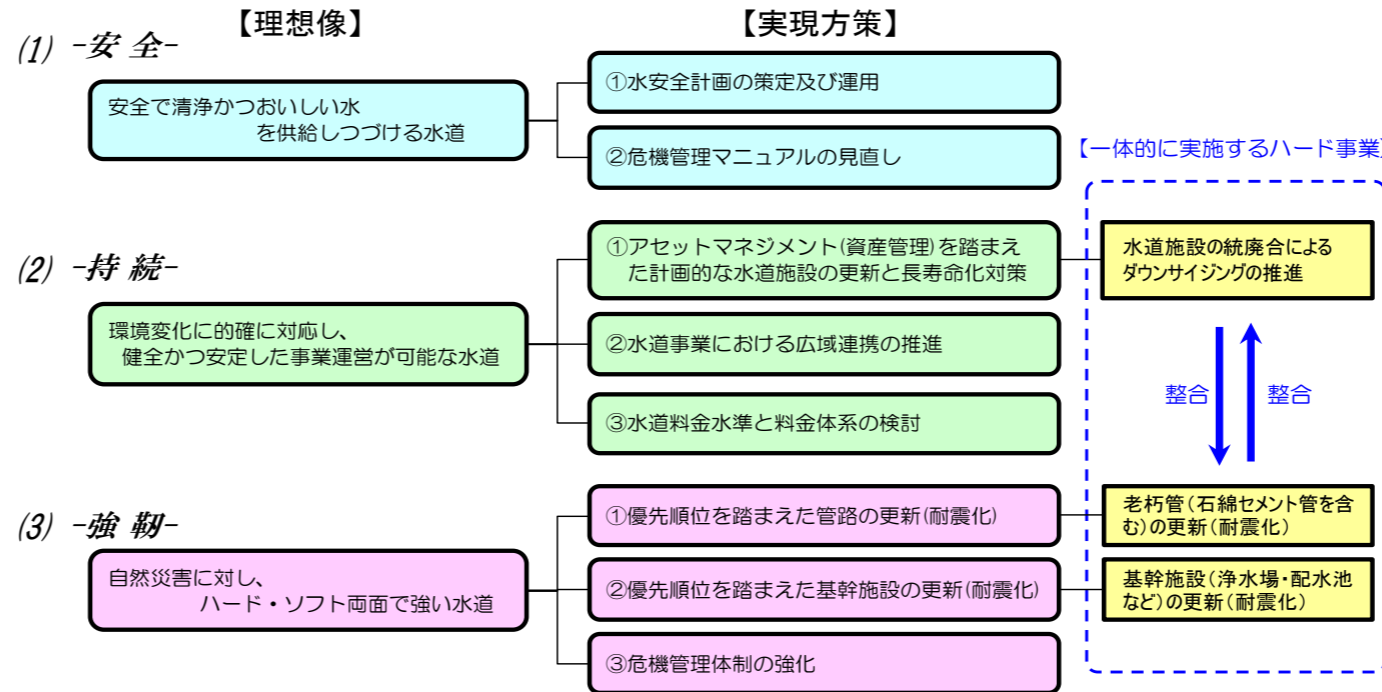
## 2 現状と課題〔本編P22～30〕

現状と課題は、次のとおりです。

区分	分析手法	現状と課題
安全	公的機関等による業務指標（共通指標による類似団体との数値比較など）をもとに、水質管理体制に関する評価を実施	現状の水質管理については、業務指標による低い評価はなく、良好。法定水質検査に加え、市独自の水質検査も実施しており、水質汚染リスクの対策など、今後も引き続き水質管理体制の充実を図る。
持続	国や公的機関等による信頼性の高いデータに基づき設定した水道施設の「更新基準」に基づき、現在の管路や施設の更新需要を算定（アセットマネジメント）	現在の管路や施設を今後も維持していくためには、分析期間40年間で総額929億円（毎年23.2億円）の規模の更新需要があり、計画的に統廃合を進めるなどして水道施設の更新を行う必要あり。
強靱	管路の耐震性の総合評価（経過年数、重要施設への接続、過去の被害状況などを点数化）と施設の耐震性評価（3段階評価）を実施	管路の耐震性の総合評価では、最優先で耐震化を実施すべきものの延長が約20km。施設の耐震性評価では、耐震性に不安があり、優先的に耐震化を実施すべきものが19施設。これらについて優先順位を精査し、耐震化を進める必要あり。

## 3 理想像と実現方策〔本編P35～46〕

次の3つの理想像を掲げ、これを実現するための方策を示します。



### (2) 環境変化に的確に対応し、健全かつ安定した事業運営が可能な水道

#### 方策① アセットマネジメント（資産管理）を踏まえた計画的な水道施設の更新と長寿命化対策

アセットマネジメント（長期的な視点で効率的かつ効果的に資産管理を行う手法）を踏まえた計画的な水道施設の更新と適切な維持管理（点検・修繕）に基づく長寿命化対策を実施します。また、水道施設の統廃合によるダウンサイジング（規模縮小による効率化）を推進することにより、将来における更新費用や維持管理費用の恒久的な削減に取り組みます。

#### 方策② 水道事業における広域連携の推進

料金収入の安定化やサービスの格差是正、人材・資金などの経営資源の効率的な活用、災害等の緊急時対応力の強化などに効果が期待されることから、宮城県を主軸とした全県的な垂直統合による広域連携を理想形として、実現に向けた検討を推進します。

#### 方策③ 水道料金水準と料金体系の検討

水道を維持するため、水道施設の更新需要を踏まえた財政収支の見通しに基づき、コストに見合った適正な水道料金水準と料金体系（基本料金と従量料金のバランス）を検討します。ただし、料金改定は、今後10年間で水道施設の統廃合によるダウンサイジング（規模縮小による効率化）を最優先課題とし、固定費削減の取り組みを進めることから、当面は現行水準を維持しつつ、取り組みの進捗を踏まえ、改定時期を見極めます。

### (1) 安全で清浄かつおいしい水を供給しつづける水道

#### 方策①：水安全計画の策定及び運用

水安全計画を早期に策定し、この計画に基づき、水供給の各段階において危害評価と危害管理を行うなど、適切に運用を行っていきます。

#### 方策②：危機管理マニュアルの見直し

危機管理マニュアルの見直しを実施します。見直しにあたっては、従来からの想定項目に加え、新型コロナウイルス等の感染症対策を踏まえた新たなBCP（業務継続計画）の追加に取り組みます。

### (3) 自然災害に対し、ハード・ソフト両面で強い水道

#### 方策① 優先順位を踏まえた管路の更新（耐震化）

管路の耐震性の総合評価に基づき、重要施設への給水管など優先順位を設定し、計画的に実施します。

#### 方策② 優先順位を踏まえた基幹施設の更新（耐震化）

施設の耐震性評価に基づき、管路と同様に優先順位を設定し、計画的に更新を実施します。

#### 方策③ 危機管理体制の強化

災害時に給水や復旧を迅速に行うため、関係団体等との応援体制や資材供給体制などの強化を図ります。また、合同訓練や研修の機会の充実を図ります。